

生涯学習センターだより

2023. 3 月号 (2022 年度第 3 号 : 通巻 36 号) 発行: 秋田県生涯学習センター



秋田県生涯学習センター

調査研究 「障害者の生涯学習」について

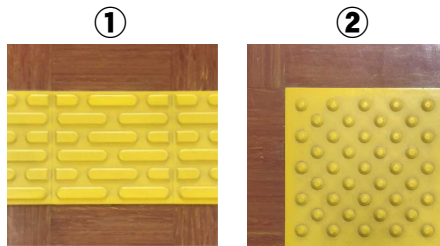
本号では、秋田県生涯学習センターの調査研究「障害者の生涯学習」について、前号に引き続き紹介します。まずは、次のクイズから！

Q1 Question

下の写真はエレベーター内を写したものです。エレベーター内に鏡があるのは、なぜでしょうか？



身だしなみ用
かと思いきや...



上の写真は点字ブロックを写したものです。それぞれの模様には、どんな意味があるのでしょうか？

まわりに物を置かないで！！

Q2 Question

Answer (答え) は、裏面にあります。



1・2年次の紹介については、当センターWebサイトで御覧いただけます。右のQRコードを御利用ください。



本調査研究は、障害の有無に関わらず、誰もが多様なあり方を認められ、積極的に学び、社会参加ができる「共生社会」の実現を図り、行っています。

3年次となる令和3年度では、こうした共生社会へのアプローチを図るためには、『当事者の方々をはじめ、多様な立場の方々に参加しての「熟議」が有効ではないか』との仮説を立て、これを企画し、2回の実施となりました。各回とも参加者は異なりましたが、特別支援学校の生徒・卒業生とその保護者、障害のある社会人の方々を軸に、生涯学習奨励員、公民館職員、障害者スポーツ推進員等の参加を得ました。熟議では、当事者はもちろん参加者“みんな”の声を聞き、“みんな”が思いを伝え合うことを重視しました。1回目はオンライン形式、2回目は対面形式での実施となりました。特別支援学校在籍の生徒さんからは「コミュニケーションは大切だと思う」、卒業生からは「自分たちで相談してイベントをつくってみたい」などの、前向きで主体的な意見が出されました。各回とも、「障害者の生涯学習」について、当事者や支援者がそれぞれに、自分に何ができて続けていきたいかを考え、深めることのできた有意義な機会になりました。

また、当センターが進める「障害者の生涯学習」に賛同くださる県内企業からなる協賛団体「ブルーS3」への参加が21社に増えたことにより、「あきたWith」が新たに創設されました。12月には、「第2回あきたWith杯ボッチャ交流大会」が開かれ、特別支援学校生、福祉事業団体、ボッチャサークル、企業の全8チームにボランティア参加者を加え、“みんな”が笑顔で、楽しむことのできる大会が実現しました。

3年次の調査研究報告として、これまでの調査研究成果もふまえた「理解促進リーフレット」を発行しています。熟議で出された当事者の声に耳を傾け、共に学ぶ機会を生み出すためにできることを考える手立てとして、御覧ください。



4年次となる今年度(令和4年度)は、「学びの場づくり」をテーマに掲げ、市町村や企業、障害のある方と接する機会の少ない方々も含めた、多様な主体との連携・協働を目指し、実践を重ねました。

まずは、これまでに培った調査研究の成果を洗練・発展させ、多くの方々との交流による学びの場の創出を目指して実施した3つの事業について紹介します。

↑ 3年次調査研究報告「理解促進リーフレット」の表紙

- ・熟議「みんなの思い イウベ・キクベ」(6月)
 - … 昨年に続き、様々な立場の方々が一堂に会し、熟議による意見交流を実施しました。
- ・街歩きイベント「アルクベ・イウベ・キクベ」(10月・あきたWith協賛)
 - … 参加者は車イス利用の方と補助者でミッションをクリアしながらの街歩きを通して、社会におけるバリアを知り、すぐには変えられない社会のハード面(インフラ)の支障を手を差し伸べる人のソフト面でカバーできる視点を得ることができました。
- ・「第3回あきたWith杯ポッチャ交流大会」(12月・あきたWith協賛)
 - … 28社参加の同団体の協力を得て、昨年よりも多くの団体が参加し(全12チーム出場)、会場も講堂に替えての開催となりました。優勝は、「あきたWithB」チームです。ポッチャを通して、みんなが笑顔で、交流を温めた大会となりました。



ブラウブリツのブラゴンも活躍!! →

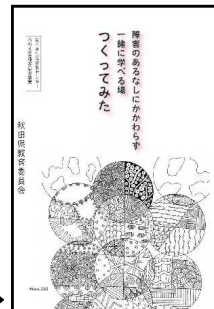
また、今年度は、市町村等における「障害者の生涯学習」普及を図るモデル事業を仙北市との連携・協働による取組を始めました。具体的取組として、次の2つを実施しました。

- ・仙北市中央公民館主催事業 大曲支援学校せんぼく校「さくらスクール」スポーツ教室
 - … 当センタースポーツスペースでも実践している卓球バレーとポッチャを行いました。
- ・障がい福祉サービス事業所「愛仙」防災教室
 - … これまでの研修や講座で培ったノウハウを生かして、講師を務めました。

今年度は、感染症対策に留意しつつ、対面形式により多くの事業を実施することができました。たくさんの方々が、直接語り・聞くことで「障害者の生涯学習」についての“声”が集まり、“学びの場づくり”につなげることへの指針を得ました。

こうした4年次までの調査研究成果を報告としてまとめ、発行したのが「意識啓発リーフレット」です。広く皆さんの学びの場づくりのきっかけやヒントになれば幸いです。

4年次調査研究報告「意識啓発リーフレット」の表紙 →



A 表のクイズの Answer (答え)

Q1 車イス使用の方の後方確認用として付いています。車イスで前進して乗りこむと、降りる時は後進となるため、後方の確認が必要となるからです。

Q2 ①誘導ブロック(線状ブロック)といい、線の伸びる方向が進行方向(進め)であることを示します。②警告ブロック(点状ブロック)といい、注意が必要となる危険箇所(停まれ)であることを示します。

“学びの場” として セカンドスクールの利用 インターンシップ の申込みを受け入れし、実施しました

今年度も当センターでは、両事業に対しての申込みを受け、「学びの場」を提供しました。児童・生徒・学生の皆さんが来所し、秋田県が進める生涯学習・社会教育の実践にふれてもらうことは、センターにとっても貴重な機会と考えています。これらの体験を通して、一人でも多くの方に、将来へとつながる発見や学びを得ていただければと思います。

◎セカンドスクールの利用

ポッチャ、卓球バレー等を体験しました★



<利用校>

- ・秋田市立飯島南小学校
- ・大仙市立仙北中学校
- ・秋田県立六郷高等学校

◎インターンシップ

事業計画の立案とプレゼンが最終目標です



<申込み校>

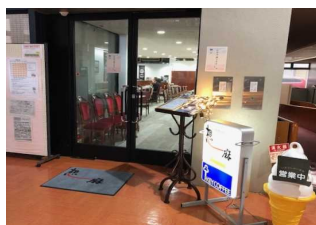
- ・秋田市立秋田商業高等学校
- ・秋田県立聴覚支援学校
- ・秋田大学



◎「茶食亭・想麻(そうま)」さん、営業中!!

以前、秋田市文化会館にお店のあった想麻さんが、当センター1階で装いも新たに営業中です。当センターにとっても、待ちに待ったお食事処の再開です! ランチタイムは、11:00~15:00で、その後カフェタイム営業になります。来所の際は、いかがですか?

カウンターに並ぶ手作りお菓子も絶品★★★



◎「避難者交流センター」移転のお知らせ

東日本大震災により被災され秋田県内に避難している方々の交流の場として、当センター3階に開設されていた同所が、令和5年3月31日に、移転します。

【移転先：秋田県庁本庁舎 総務部総合防災課内】

今後とも、より一層の復興を心より祈念しています。

【問合せ】 秋田県生涯学習センター

〒010-0955 秋田市山王中島町1-1

電話 018-865-1171 FAX 018-824-1799

Eメール sgcen002@mail2.pref.akita.jp